



第1回

トークセッション「食」人紹介



鈴木さん
(チャリカフェポーター)

ポートランドのワイナリーでは地元の人たちが地元の食材・自分たちのワインで、地元の景色を見せながら、もてなす光景を見て、常滑でワイナリーを起こし、レストランをやっている。

蒲郡の美しい景色を見せながらや、気の合う友達、気持ち良い空間などの中で食事をするなどの幸福感あふれるシーンを作りたい！

元々は自転車乗りでサイクリストをどのように迎えようかということでお店を始めた。

お魚が水揚げされているがそこに魚の価値を高めることができるか！
西蒲町の価値を上げることを行おうとしている！

蒲郡は水産物の魅力があり商売の傍ら小学生や高齢者の方に料理教室をしている。

地元の方々が魅力を知らないことや、みんなで一つになってやるということが苦手だと感じる。そこで、1人でも仲間を作ろうと活動をしている。



竹内さん
(農家)

トマトジュース、みかんジュース、トマトのケチャップ、みかんジャム、を作っているが売れない。売り方をどうやっていくのが重要だと感じる。

これからの取り組みの中で農家の人を集めることはできるがその後どう盛り上げていくのが重要だと思う！

遊びを知っている大人が若者を応援してほしい！

漁師さんはいきなり自分で取ることができるからすごい！
自分達で売ったという喜びが一番嬉しい！最初の一步目を共有してやりやすい環境を作ってあげることが大事！



吉口さん
(moi)

元々は蒲郡で保育士をやっていたが、今は子供やお母さん達に何かできないかと思いお菓子の販売やワークショップなど子育ての癒しにならないかと思い始めた。

蒲郡は様々な資源があり、その資源を活用し楽しく魅力的な場所であると全国に発信することで人が集まってくる。

蒲郡市の食資源はまとまればすごいパワーを発揮できる！
自然を生かした食を大事に育てていくことと人材を育てていくことが今後重要である。



馬場さん
(常滑ワイナリー)



中北さん

居酒屋以外に魚屋さんでアルバイトをしており朝の漁師さんの苦勞もわかっている。ポテンシャルは高いのに発信力が弱く感じる。

「蒲郡のどこに行ったほうがいいの？」と聞かれた時に毎週やっているマルシェなどが提案できればお客さんに説明がしやすい！

蒲郡の食を使ったイベントを企画した。

蒲郡は心と体が幸せになる食材をもっとアピールしていくことが大切である！そこで、おもしろおかしく伝えていくことが重要ではないか！

今の漁師の現状はコロナによって外食が減り魚市場の相場が下がりがたい厳しい時期があったが今は落ち着いてきている。しかし、元通りにはなっていない。

仲買人によって高くなってしまいうため漁師が実際に消費者に売ってはどうかという案も出ているが売ったりするのは素人で人脈もない。



忽那さん
(E-DESIGN)

一緒にプラットフォームで行動も起こし、仕組みや場所の空間性を官民一体でみんなの意見を聞きながらできる場所を持っているのがまちづくりにとって大切である！

街を使いこなしている人、場所を使いこなしている人が多くいること、それが積み重なっていることが街の魅力になっている！



小田さん
(珈琲喫茶 hiraya)

何か街を作るにはソフト(コンテンツ)、ハード整備の両輪で行くことが理想！蒲郡の財産をみんなで確認し合い地域の食の力を結集したい！地元の食は外からも住民の過ごす場にもなる！

蒲郡でできる蒲郡にちょうどいいを見つけ、美味しいをいつも楽しめるベイエリアを目指そう！



大畑さん
(オンディーナ)



安井先生
(愛知工業大学 教授)

スペインのサンセバスチャンの街は海と山が近く海の幸・山の幸がある。そこには、200店舗ぐらいあつまっておりピンチョス(つまみ)を食べ、6店舗回することでバスク地方の良いところや海の幸、山の幸を堪能できる。東港地区もサンセバスチャンの街を目指して頑張らましよう！

食は力を持っているのでみんなで集まり価値観を共有し一つのまちを作っていくことができたらいいなと思う！



中北さん
(居酒屋ためぎ)



加藤さん
(漁師 順風丸)



長町さん
(LEM 空間工房)